

# 金大中を殺さない様 血の泪と人権を守れ

金大中が殺されようとしている。早ければ今  
日うちに、大法院の判決が下され、即刻死刑が執行  
されようとしている。「金大中を死なせてはならない。  
今や彼は韓国人にとって唯一の可能性である」(T.K.  
生『韓國からの通信』より)これは、韓国において、  
民主化斗争の中で血を流し、獄につなぐれた全ての人々、  
朴独裁の18年間、全斗煥の血の独裁の下で、声な  
き声をひたすら内向させ呻吟してきた人々の叫  
びである。

金大中は、72年の露骨反遷争平歩下の大統領選で  
朴と堂々とめたいたいかった韓国の国民的政治理想であり、  
以来、韓国における民主化斗争のシンボルであった。  
そして昨年10・26の朴射殺以降、5・17ワーテタニ、  
光州騒動と共に上った韓国民主化斗争の中で、学生、  
野党新民党、そして自身を含め「國民連合」等の在  
野勢力を、ひとつに結びつけたのも彼の存在であった。

金大中を殺してはならない。彼を殺せることは、  
血であがむれてきた韓国民主化斗争に、更に取り  
返しつかない後退をたらし、我々日本人にとって  
は、江華島条約以来百年の民族抑圧と排外主義の歴史  
にまた新たな消し難い跡を残すであろう。

日本政府は、この間の一連の「憂慮」「関心」の猿芝  
居を終え、12月1日の須之詔駐韓大使と、金東輝弁護  
代理との会談において、完全に死刑合意体制を完成さ  
せた。この間の日韓両国政府の動きは、緊急行動実行  
中の諸君が「緊急アピール」等において正しく指摘し  
ている様に、死刑合意を前提とした上で、アリバイ

アクリ  
戦線の  
かく乱

抗出運動の非外主義的ぬき分けを狙ったもの以外の組  
でのでもない。それゆえ、金大中への死刑到来、死刑  
執行に対して、起いらる全ての事態の責任は、全斗煥  
そしてそれを支える日本政府にある。

今、我々に求められているのは、金大中の死刑を阻  
止しれる具体的な行動、ヨイである。運動の全ゆる非  
外主義的ぬき分け、利潤主義は非ざねばならない。英  
雄的韓国学生は、光州以降の全斗煥の血の戒厳令下の  
中でも、10月8日ソウル神学大、17日高麗大、30日延  
世大、11月7日ソウル成均館大と陸續と数千名の規模  
で発起している。そしてその中で高麗大的学生は、「生  
命をえる日本帝国主義者の追放!」を高らかに叫んだ。  
この辺の告発に我々は仰としても応えなくてはならぬ  
い。

我々は、本日より予想される死刑判決一執行といテ  
事態に対して、我々の拠点たる学園において全ゆる可  
能な手段、方法をもってヨイを展開する。この数日間  
は、まさに「20年ぶり日にやつてくる」日々である。  
我々は、我々自身、身をもってヨイ。そして全ての諸  
君が授業を放棄し、討論をなし、クラス決議をあげ、  
アラストで発起し、ヨイの輪にはせ参ることを期  
みかける。又此山を断固として諸君らに強制する。そ  
れこそが韓国学生の血の叫びに応え、金大中の死刑を  
阻止するために今、必要なことなのだ!

其に当れん。

1980年12月5日

# 金大中を殺さない様 金大中を守れ